

(課題) 作品・演奏を端的に表したキャッチフレーズ (40 字未満)

「制作の扉をたたく。考える牛。」 ← 茫洋としている。原因は以下の文章の問題意識が絞られていないためです。私もあれこれ書き込みましたが、論じたいテーマを絞って、他は次回に回して下さい。

・何がしたいか (800~1000 字) 「は」「が」の違い

大学に入って、初めての課題が、牛のブロンズ像を作ることでした。今までにも、粘土だけで形をつくる塑像の経験は、高校の実習で少しはありました。(粘土だけで形をつくる塑像の経験は、高校の実習で少しはありました、で分かるネ。今までにも、は無くて良い) しかし、近江黒毛和牛の様 (この読みの問題 よう? きま? ここは、ひらがなで「よう」と書いておいた方が、読み手に優しい) な大型動物をモチーフ対象にしたことはないありません。(文章をいったん切りましょう) ← また餌やり、掃除などの世話も全て、生徒自分たち学生自身で行うことは、初めての経験でした (先に、経験、という言葉を使ったばかりなので、重複を避けるようか)。

指導の教授からは、彫刻家としての心構えを教えてくださいました (教わりました)。どんな内容かというのと、彫刻家ロダンが書き記した「若き芸術家たちに」というタイトルの文章から言葉を紹介していただいたり (もらったりしました) ←

また、アイデアについて、(この「、」点と、直前の点の使い方が異なる。ここでは除去した方が良い) 「インスピレーションは何もない空から降ってくるのではなく、とにかく手を動かす中で生まれること、体を動かすと頭も動く。(←マル取る)」といった、貴重な示唆を得ましたなどです (などです、という言葉で結んでしまうのは、やや乱暴。別の表現を考えてみよう)。改行しないなら、要らない → 教授がおっしゃった中でも、

最も特に印象深かった教えはのが、(以下の二つの要素のうち、一つを選んでください。あなたが得た「学び」は、どちらかの言葉に、集約出来るのではないですか) 「影を追ってはいけない」というのと、「牛の過去と現在未来」(←少なくとも現在は見ていただろう) の時間も像を見て、(何を) 感じ取れるようにということです。この事については、後期の実習が終わった今も、この言葉の意味を考えています。牛を作る時、「影を追っている」状態というのは、形の外側のラインをなぞった様に、見たままを粘土に置き換えて、ただ外見をそっくりにした状態である、と私は考えています (解釈しています) と思います。一見、(←この点は要る) 牛のように (この、文字を足すことで、しかしながら、、、という以下の文章への流れをつくりだせる) 見えるのですが、これだけではの状態ではいけないのです。彫像として自立させざる (する、か、させる、か どっちだろうか) には、牛らしさがその骨格や、脚、爪などの雰囲気表れていることをよく踏まえて、面と面の力関係という点まで意識して制作することが、影を追わない、ということなのではないかと、考えています。そうすることで、より牛の (移す →) 生き生きした牛の像になり、牛の「現在」だけでなく、「牛の過去や現在未来」の時間も見る人の心の中に、生まれて

くるのではないでしようかと思~~います~~。

【以下、ボツ】2回生の前期は引き続き、基礎実習をします。扱う素材は、金属・樹脂・石です。金属などは大学の大きな設備がないとなかなか扱えるものではないので、楽しみです。あと2月中旬に行われた、制作展の合評で、物理的に凹んでいるからといって、凹んでいるように見えるとは限らないということを指摘されました。凹みの部分を凹んでいるように見せるには、その周囲の部分が、その凹みの部分に、どのような力を作用させているのかを意識して形を作っていないといけません。この指摘された点を踏まえた上で、今まで制作に使用したことがない、素材を使い、制作がしたいです。